

CHUKYO UNIVERSITY Graduate School 2023

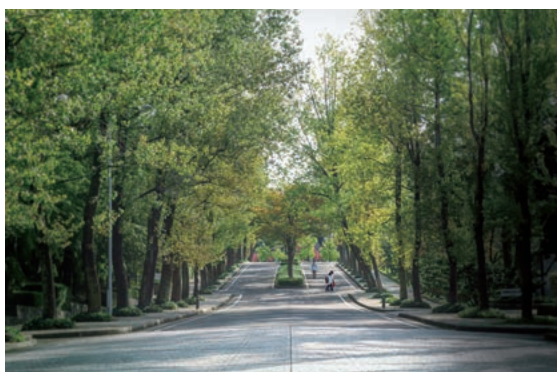
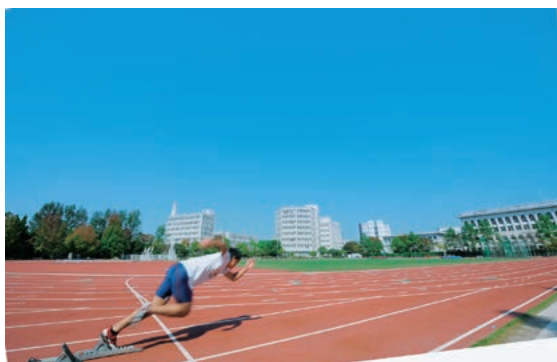
中京大学大学院案内



建学の精神

梅村学園の建学の精神の要約は「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」である
すなわち学術の場では学術の研鑽と共に
ジュニトルマンシップ・プレイ・シップを醸成陶冶する
スポーツの場では健康の増強・心技の練成
と共にスポーツマンシップを体得するスポーツ
マンシップ・イズ・ジュニトルマンシップ・スポーツ・マン
シップとはルールを守りニベストを尽くす
三チームワークをつくり四相手に敬意を持つ
この四大綱を内容とする
このような精神の体得者は個人としても家庭人
としても社会人としても国民としても世界人類の
一人としてもまことに望ましい人間である
このような教育は如何なる国の如何なる時代に
おいても肯定され歓迎される本質を有する
梅村学園はこの建学の精神と教育の基盤
として永遠に堅持高揚を期する
一九八二年二月十八日

学校法人 梅村学園
総長 梅村 清明



中京大学大学院は 中部地区屈指の文系・理系9研究科を擁する 総合大学大学院です

文 学 研 究 科	日本文学・日本語文化専攻	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P. 8
	歴史文化専攻	修士課程	P.11
国 際 英 語 学 研 究 科	国際英語学専攻	修士課程	P.13
	英米文化学専攻	修士課程	P.15
心 理 学 研 究 科	実験・応用心理学専攻	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P.17
	臨床・発達心理学専攻	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P.19
社 会 学 研 究 科	社会学専攻	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P.22
法 学 研 究 科	法学専攻	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P.25
経 済 学 研 究 科	経済学専攻	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P.28
	総合政策学専攻	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P.31
経 営 学 研 究 科	経営学専攻	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P.33
工 学 研 究 科	機械システム工学専攻	修士課程	P.36
	電気電子工学専攻	修士課程	
	情報工学専攻	修士課程	
	工学専攻	博士後期課程	
ス ポ ー ツ 科 学 研 究 科	スポーツ科学専攻	博士前期課程（修士課程）・博士後期課程	P.43
学位授与件数・研究支援			P.48

スポーツ科学専攻

博士前期課程（修士課程）
博士後期課程

豊田キャンパス

Health and Sport Sciences



沿革

- 1974年 4月 体育学研究科体育学専攻修士課程開設
1987年 4月 体育学研究科体育学専攻博士後期課程開設
2021年 4月 体育学研究科体育学専攻をスポーツ科学研究科スポーツ科学専攻に名称変更

概要及び特色

本研究科は体育学研究科として1974年に開設され、40年以上の歴史を誇ります。私立大学の体育科学系大学院として日本で初めて博士後期課程を開設するなど、常に先進的な試みに挑戦。今日まで実に87名の院生・研究者に博士（体育学）の学位を授与してきたことも先進的教育の軌跡の証しです。体育、運動、スポーツは、人間の精神と身体を動員して行われる活動であるだけでなく、社会的な意味をもつ営為としても存在します。それへの研究アプローチはさまざまな問題意識から可能で、そうした特性に対応すべく、本研究科は極めて多様な専門性を有する優れた指導者を教授陣に擁しています。博士前期課程では研究者の養成のみならず専門的知識と教養を備えた職業人の育成に力を注ぎ、また博士後期課程では体育学・スポーツ科学および健康科学にかかわる研究を独自に進めることのできる先進科学者の育成に貢献しています。

近年、さまざまな面で体育・スポーツに対する関心・需要が高まっていることから、こうした社会の要望に適切に対処するため、本研究科では体育・スポーツに関する高度でかつ多面的な研究が不可欠であるとの認識に立って教育・研究に取り組んでいます。総合科学としてのスポーツ科学の特徴をふまえ、以下の5つの系からカリキュラムを編成し、研究指導などを行っています。

スポーツ文化・社会科学系

スポーツを幅広い問題意識のなかで捉え、科学的方法論に即して分析・検討を加える。思想・文化・歴史・社会・教育・政治・法律・経営・経済・産業など、文化事象として、社会現象として、また制度として認識されるスポーツを広く研究の対象とする。

スポーツ認知・行動科学系

スポーツにおける心理的問題の解決を基本課題とする系である。従来の心理学的方法とスポーツ科学の方法との統合を目指しながら、スポーツ行動に関する認知的問題、メンタルトレーニングの問題、計量的問題、臨床心理的問題、発達と加齢の問題などについての教育・研究を進める。

スポーツ生理学系

運動によって起こる身体の変化と、運動を可能にする身体の仕組みを、形態・生理・生化学的に幅広く研究する。このような研究から、身体運動を通じて達成される体力の強化、活動力の向上、健康の増進、疾病の予防や老化の防止、疾病の治療の基礎になる資料などを得ることを目的とする。

スポーツ健康科学系

人の健康は、遺伝・環境・行動の諸要因の複雑な関連の上に成り立っている。これら諸要因と健康との関連を、傷病の予防および健康の維持・増進の観点から研究する。主な課題は、健康の維持・増進と運動、スポーツ障害の予防、傷病からのスポーツ復帰、保健行動、様々な社会要因と健康の関連などである。

応用スポーツ科学系

研究の中核にバイオメカニクスをおき、その他の多くの科学、たとえば生理学、心理学、教育学などの研究方法も取り入れ、学際研究的な科学を目指す。これらの研究結果を新しいトレーニング法、コーチング法に応用するための研究を進める。

教育課程

* 以下は2022年5月時点の情報です。

博士前期課程（修士課程）

- 〈スポーツ文化社会科学系〉
スポーツ原論研究、スポーツ原論特殊講義、スポーツ史研究、スポーツ経営学研究、
スポーツ法学研究、スポーツ社会科学Ⅰ・Ⅱ、スポーツ文化社会科学特論Ⅰ～Ⅲ
〈スポーツ認知・行動科学系〉
スポーツ認知行動論研究、臨床スポーツ心理学研究、実験スポーツ心理学研究、
健康心理学研究、スポーツ行動計量論研究、幼児体育論研究、スポーツ脳科学研究
〈スポーツ生理学系〉
スポーツ栄養学研究、スポーツ生理学研究A～D、温熱生理学研究
〈スポーツ健康科学系〉
スポーツ健康学研究、スポーツ医学研究、疫学研究、
スポーツ衛生学研究、機能解剖学研究、運動医科学研究
〈応用スポーツ科学系〉
バイオメカニクス測定法研究A・B、スポーツバイオメカニクス研究、
コーチング論研究、トレーニング論研究、コンディショニング研究
〈各系共通〉
スポーツ科学研究総論、スポーツ科学研究法ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB、ⅢA・ⅢB
保健体育授業研究法、研究セミナー1～4、研究指導1～4

修了要件

1. 研究指導および研究セミナー各8単位、所属系以外の10単位以上を含む合計32単位以上を修得すること
2. 修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

修士（スポーツ科学）Master of Science in Health and Sport Sciences

博士後期課程

講義科目

スポーツ文化・社会科学特殊研究A・B、スポーツ認知・行動科学特殊研究A・B、
スポーツ生理学特殊研究A・B、健康科学特殊研究A・B、
応用スポーツ科学特殊研究A・B

演習科目

研究セミナー1～6、研究指導1～6

修了要件

1. 研究指導および研究セミナー各12単位以上を含む合計28単位以上を修得すること
2. 博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること

取得可能な学位

博士（スポーツ科学）Doctor of Philosophy in Health and Sport Sciences

上記5つの系および教育課程については、2023年4月より変更が予定されています。

取得可能な資格

- 博士前期課程（修士課程） 中学校教諭専修免許状（保健体育）、高等学校教諭専修免許状（保健体育）
※ただし、すべて1種免許状を取得している者に限る。

学生の研究内容例（論文題目）

- 博士前期課程（修士課程） 「「オリンピック」を活用した体育実技の実践—体育理論と道徳を利用した授業の取り組み—」
「国内の女子アマチュアボクシングの競技採用の過程に関する研究—1996-2002年の女子アマチュアボクシングに着目して」
「スポーツ分野に関わる理学療法士の現状に関するジェンダー分析：彼らはどのような困難を抱えているのか」
「女子柔道のオリンピック種目採用にむけた Rena Rusty Kanokogi の活動—自伝“Get up and Fight”の検討を中心に—」
「身体運動認知の再適応プロセスの時間依存的特性に関する研究—トランポリン跳躍後の後効果に着目して—」
「サッカーのsmallサイドゲームのフィールドサイズが動きの特性・生理学的応答・主観的評価に及ぼす影響—熟練者と未熟練者の違いに着目して—」
「背負い投げを用いたタバタ式トレーニングの有効性の検討」
「夕食前のホエイプロテインの摂取は大学アメリカンフットボール選手の食欲・エネルギー摂取量を抑制するか」
「腰痛の傷害特性を考慮した観察研究および関連する要因の検討—陸上競技棒高跳選手を対象として—」
「野球の打撃における左右広角への打球飛距離増大に関する研究—打球の回転が飛距離に及ぼす影響に着目して—」
「中国・内モンゴル自治区の小学6年生における大気汚染程度と体力水準との都市間関係」
「体育・スポーツ現場の熱中症予防に関する具体的方策—日射遮蔽と身体冷却の効果—」
「両手同時筋力発揮の神経制御に関する研究」

課程修了後の進路

総合科学であるスポーツ科学そして健康科学の高度な専門知識を身につけた修了生は、高等教育機関の研究者・教育者、競技スポーツの指導者・トレーナーなどの専門的な職業のほか、中学校・高等学校教員、自治体や企業などの様々な領域で活躍しています。

専任教員

*以下は2022年5月時点の情報です。

〈職位別に50音順〉

●スポーツ文化・社会科学系

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
石堂 典秀 ISHIDO, NORIHIDE 教授 修士（法学）	スポーツ法学〈Sport Law〉 スポーツ事故、プロスポーツ契約、ドーピング違反、セクハラ・パワハラ等、スポーツから生じる様々な問題や事象の多くは法やルールと密接に結びついている。国際的にはスイスのスポーツ仲裁裁判所（CAS）の判断は、オリンピックなどの国際競技に重要な影響を与えており、国際的なスポーツ法研究にも関心を有している。	博士：講 修士：研
菊池 秀夫 KIKUCHI, HIDEO 教授 Ph.D.（学術）	スポーツ経営学〈Sport and Recreation Management〉 スポーツやレクリエーション・サービスの提供に関わるミクロ・マクロの問題について、消費者志向であるマーケティングの立場から検討している。参加者のニーズやベネフィット、選好、満足度等の把握をはじめとして、様々な消費者行動の分析枠組みに基づき、適切なサービスのあり方とそれを提供するシステムづくりについて関心がある。	博士：研 修士：研
千葉 直樹 CHIBA, NAOIKI 教授 博士（体育学）	スポーツ哲学、スポーツ社会学〈Sport Philosophy, Sport Sociology〉 スポーツのグローバル化に関心をもち、外国人スポーツ選手の視点を通して、日本スポーツ文化の特質を相対化してきた。比較文化という視点を通して、日本スポーツ界に起る暴力問題、日米バスケットボール指導者のコーチング哲学、運動部活動の改革について研究している。	博士：研補 修士：研
吉田 毅 YOSHIDA, TAKESHI 教授 博士（体育科学）	スポーツ社会学、災害社会学〈Sport Sociology, Disaster Sociology〉 アスリートのキャリア形成問題、具体的にはバーンアウトをはじめセカンドキャリア形成の困難の要因・背景を主に社会化論の視点から、また、地域スポーツクラブの災害復興とレジリエンスのあり方を被災地のフィールドワークを通じて検討している。	博士：講 修士：研
來田 享子 RAITA, KYOKO 教授 博士（体育学）	スポーツ史〈Sport History〉、スポーツとジェンダー〈Sport and Gender〉 オリンピック・ムーブメントの歴史に焦点をあて、スポーツ組織の権力のダイナミクス、ジェンダーなどの視点から国内外の史料を検討している。また、この検討で得られた歴史的知見をベースに、より多様な人々のスポーツの権利を保障するために必要とされるスポーツ政策、社会環境、スポーツそのものの変容について研究している。	博士：研 修士：研
伊藤 央二 ITO, EIJI 准教授 Ph.D.（体育・レクリエーション学）	スポーツツーリズム、余暇・レジャー学〈Sport Tourism, Leisure Studies〉 スポーツの要素を含む旅行であるスポーツツーリズムについて、観光客の心理的経験や観光地の地域再生など、さまざまな角度から検討している。また、スポーツや観光を含む余暇・レジャー活動について、社会心理学および文化心理学の観点から研究を行っている。	博士：研 修士：研

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
舟橋 弘晃 FUNAHASHI, HIROAKI 准教授 博士（スポーツ科学）	スポーツ経済学・マネジメント〈Sport Economics and Management〉 スタジアム・アリーナ、プロスポーツチーム、スポーツイベント、国際競技力向上施策といったスポーツ投資のインパクト評価や社会的受容性の分析を通じた政策決定支援をしている。	博士：研 修士：研

●スポーツ認知・行動科学系

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
荒牧 勇 ARAMAKI, YU 教授 Ph.D.（理学）	スポーツ脳科学〈Sports Neuroscience〉 スポーツや日常動作に関する運動・認知メカニズムについて脳科学の手法でアプローチしている。MRI 脳構造・機能画像によるスポーツ競技ごとの脳の特性やトップアスリートの脳の特徴、身体トレーニング介入による脳の変化、スポーツ時の脳波計測、経頭蓋電気刺激を用いた運動・感覚・認知の操作などが研究テーマである。	博士：研 修士：研
小磯 透 KOISO, TOHRU 教授 博士（体育科学）	保健体育科教育〈Pedagogy of health and physical education〉 学校現場を主なフィールドとして、体育や保健の授業づくり、教材づくり、その授業の成果や分析、教師行動や児童・生徒の学習活動など、実践的な課題に取り組んでいます。また、ミャンマーやスリランカなど、アジア周辺での学校教育改善の協力、研究にも関わっています。 （参考）家田重晴 編著：「保健科教育 改訂第4版」（杏林書院）2020. 家田重晴・勝亦紘一・金子耕一 編：「新しい体育の授業づくり」（大日本図書）2020.	博士：研補 修士：研
國土 将平 KOKUDO, SHOHEI 教授 博士（体育科学）	学校保健学〈School Health〉 子どもの身体の発育発達や健康的生活習慣、メンタルヘルスなどの実態把握、年齢や経時的な変化ならびに相互作用について統計的手法を用いながら実証的な研究を進めている。またタイ、ネパール、ラオス、ミャンマーにおいて学校保健活動を通じた学校教育改善の国際教育協力ならびにその効果の検証の研究を行っている。	博士：研 修士：研
中野 貴博 NAKANO, TAKAHIRO 教授 博士（体育科学）	子どもスポーツ学、発育発達学〈Child Sports, Growth and Development〉 子どもの運動実施が体力や生活習慣、教育、人格陶冶などに及ぼす影響について、フィールドでの実践や調査を通して示していく。また、子どもの運動発達についても検討し、適切な実践方法を提案していくことで、広く子どもにとっての運動の価値の向上を目指す。	博士：講 修士：研補
野田 智洋 NODA, TOMOHIRO 教授 博士（コーチング学）	コーチング学、スポーツ運動学、体操競技方法論 〈Coaching Theory, Phenomenological kinematics, Sport Methodology-Gymnastics〉 学習者が映像情報の観察によって運動経過を把握する能力に影響を与える要因を研究しています。低学年の児童には連続写真より動画映像を提示した方が良いことが分かりました。再生方法の違いが与える影響を明らかにすることが今後の研究テーマです。また、体操競技や器械運動における技の効果的な指導方法の開発と普及を進めていきます。	博士：研 修士：研
山田 憲政 YAMADA, NORIMASA 教授 博士（教育学）	知覚・運動科学、スポーツ心理学、スポーツ・バイオメカニクス 〈Perception and motor system, Sport Psychology, Sport Biomechanics〉 身体運動を、心理、力学を統合する情報概念から包括的に捉え、アスリートの知覚、知覚と動きのダイナミクス、運動学習のメカニズム、運動情報の伝達メカニズムにアプローチする。	博士：研 修士：研
加納 裕久 KANO, HIROHISA 助教 博士（人間発達学）	子どもスポーツ学、発育発達学、測定評価論 〈Children's Sports Science, Growth and Development, Performance Measurement〉 幼児期の運動発達について、神経系のコーディネーション能力に焦点をあて、その発達の特性について研究している。主に筋出力を条件に応じて調整し動作の正確性を評価するコーディネーション能力テストの開発や運動遊びがコーディネーション能力に与える効果、幼児や親の運動・生活習慣とコーディネーション能力との関係性について検討している。	博士：講 修士：講

●スポーツ生理学系

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
梅村 義久 UMEMURA, YOSHIHISA 教授 博士（保健学）	運動生理学〈Exercise Physiology〉 運動又はトレーニングに対する身体の生理学的な適応に関する研究で、特に骨及び筋について検討している。骨に関する研究においては、骨強度を高める運動様式や運動方法及び骨の適応について研究をしている。筋については、筋・腱複合体の弾性などについて検討している。	博士：研 修士：研
松本 孝朗 MATSUMOTO, TAKAAKI 教授 博士（医学）	環境生理学・運動生理学〈Environmental Physiology, Exercise Physiology〉 環境が生体機能に及ぼす影響について研究する分野を環境生理学という。中でもヒトの暑熱適応、特に熱帯地住民の長期暑熱順化を主テーマとして取り組んできた。最近は運動・スポーツ・健康を中心とし、運動時の人の体温調節・エネルギー代謝への雨・風の影響、運動後の疲労回復法、ボクシングの減量、熱中症の予防、オリンピック・パラリンピックの暑熱対策など、幅広い研究を行っている。	博士：研 修士：研

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
渡邊 航平 WATANABE, KOHEI 教授 博士（教育学）	神経筋生理学、神経筋バイオメカニクス （Neuromuscular Physiology, Neuromuscular Biomechanics） 骨格筋の活動を制御する神経筋系を中心に、加齢、発育、運動トレーニング、疾患、食事などが、ヒトの運動機能に及ぼす影響に関する研究を進めている。	博士：講 修士：研補
大家 利之 OHYA, TOSHIYUKI 准教授 博士（体育学）	運動生理学 （Exercise Physiology） エリート競技選手の体力特性の解明や高強度運動パフォーマンス向上の為のトレーニング方法の開発について、エネルギー供給機構の観点からアプローチしている。その中でも特に、サッカーやバスケットボールなどのゴール型球技の選手に着目して研究を行っている。	博士：研 修士：研
中村 和照 NAKAMURA, KAZUTERU 准教授 博士（体育科学）	スポーツ栄養学、運動生理学 （Sports Nutrition, Exercise Physiology） これまで、漸増負荷運動時の血糖値の動態を用いた競技能力の評価方法、レース時のエネルギー及び水分補給とパフォーマンスの関係について研究を行ってきた。今後は、栄養状態を反映する生理学指標を用いて、アスリートの栄養状態の課題について調査を行い、トレーニング効果を高めるための栄養摂取方法について研究を行う予定である。	博士：研補 修士：研

●スポーツ健康科学系

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
種田 行男 OIDA, YUKIO 教授 博士（医学）	ヘルスプロモーション （Health Promotion） 身体活動・運動・スポーツを手段とした健康づくり（ヘルスプロモーション）活動の企画・運営・評価を行う。現代において、国民全体の健康増進は社会的な重要課題である。これらの活動はこれまでのようにスポーツや保健分野のみが担うのでは不十分であり、教育・都市計画・交通・環境・経済などの分野との連携が求められる。本専攻のミッションは多分野連携による健康づくり活動の企画・運営・評価に関する科学的根拠を蓄積することである。	博士：研 修士：研
葛原 憲治 KUZUHARA, KENJI 教授 博士（教育）	ストレングス&コンディショニング （Strength & Conditioning） アスリートの競技パフォーマンスの向上や傷害予防のためのトレーニング、競技特性に応じたレジスタンストレーニング、機能的なウォーミングアップ、疲労回復のためのリカバリーやコンディショニング、ピリオダイゼーションの概念を考慮したトレーニング計画などを探求し、スポーツ現場の問題解決につながる研究に取り組む。	博士：講 修士：研補
重松 良祐 SHIGEMATSU, RYOSUKE 教授 博士（体育科学）	健康づくり、普及研究 （Health Promotion, Dissemination Research） 健康増進、身体活動・運動の効果検証、スポーツ傷害の予防、運動ボランティアの養成・支援、研究知見の国内外への普及法の開発などに関心がある。	博士：研 修士：研
篠原 純司 SHINOHARA, JUNJI 教授 博士（運動科学）	アスレティックトレーニング、運動科学 （Athletic Training, Exercise Science） 下肢のスポーツ障害・外傷の予防、競技復帰のためのアスレティックリハビリテーション・リコンディショニングを研究領域としている。特に足関節捻挫後に発症する慢性足関節不安定症の病態とその改善方法についての研究を重ねている。	博士：講 修士：研
清水 卓也 SHIMIZU, TAKUYA 教授 博士（医学）	スポーツ医学 （Sports Medicine） 近年、スポーツ障害は、core stabilizationを基盤とする運動連鎖の破綻により生じるという考え方が提示されている。運動連鎖における四肢の動作パターンと、スポーツ障害の関係を解析することを、主な研究テーマとしている。ほかに、スポーツ障害の発生状況から、発生要因を明らかにすることもテーマとしている。	博士：研 修士：研
福崎 千穂 FUKUSAKI, CHIHO 教授 博士（教育学）	健康科学、運動生理学 （Health Sciences, Exercise Physiology） 運動実践は、健康や体力の維持増進を促す重要な手段である。しかしながら、疾患患者や高齢による低体力者では、運動実践そのものが難しくなることがある。トレーニングに関する基礎研究や運動指導実践を通じて、彼らでも実践できる「より安全で効果的な運動方法の開発」を目指す。	博士：研 修士：研
光山 浩人 MITSUYAMA, HIROHITO 教授 博士（医学（機能構築医学））	スポーツ医学、整形外科 （Sports Medicine, Orthopedic Surgery） 競技スポーツのみならず生涯を通じた健康スポーツの観点からも関節機能は運動レベルや日常生活における活動性ひいては生活の質に直結している。関節機能を軟骨代謝や靱帯機能さらに筋肉・腱との関連から明らかにする。また関節機能と運動連鎖を解析し運動能力の向上とスポーツ傷害の予防・治療のための研究を行う。	博士：研 修士：研
渡邊 丈眞 WATANABE, TAKEMASA 教授 博士（医学）	公衆衛生学 （Public Health and Preventive Medicine） 「何かができる・できない」という能力あるいは「何かをする・しない」という行動は、生活している環境の修飾を受けている。人とその生活環境との関わりを考究することにより、その人々への健康支援サービスはより豊かなものになる。運動・スポーツと健康との関わりについて、ヒト集団を対象として疫学的・行動科学的研究を実施している。	博士：研 修士：研

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
倉持 梨恵子 KURAMOCHI, RIEKO 准教授 博士（人間科学）	アスレティック・トレーニング〈Athletic Training〉 アスリートは常に怪我の危険と隣り合わせである。アスレティック・トレーニングはアスリートが抱えるスポーツ外傷・障害の予防を目標とし、その評価、応急処置、アスレティック・リハビリテーション、コンディショニングを包括的に扱う。特に運動器のスポーツ外傷・障害の要因を探索し、怪我をしにくい身体づくりのための方策を模索する。	博士：研 修士：研

●応用スポーツ科学系

教員名等	専攻分野及び内容	担当※
桜井 伸二 SAKURAI, SHINJI 教授 博士（教育学）	スポーツバイオメカニクス〈Sport Biomechanics〉 Bio（生命あるいは生体）と Mechanics（力学あるいは機序）の合成語であるバイオメカニクスは、狭義には生体の構造や機能を力学的観点から解明する科学であり、広義には「身体の運動」の全般に関する科学である。力学、解剖学、生理学の基礎知識と、ビデオ画像解析、フォースプレート、筋電図などの解析法を用いて、歩・走・跳・投・打などスポーツの動作をより深く理解しようと試みる。	博士：研 修士：研
田内 健二 TAUCHI, KENJI 教授 博士（体育科学）	スポーツバイオメカニクス・トレーニング科学〈Sport Biomechanics, Training Science〉 バイオメカニクス分野の動作分析、あるいは生理学分野の体力の測定評価を中心とした研究手法を用いて、身体の仕組み、あるいは運動の仕組みを理解し、どのようにすれば効果的、効率的にパフォーマンス（特に、競技パフォーマンス）を向上させられるかを学ぶ。最終的には、理論に裏付けられたトレーニング手段の構築を目指す。	博士：研 修士：研
高橋 繁浩 TAKAHASHI, SHIGEHIRO 教授 博士（体育学）	コンディショニング研究、水泳、コーチング学〈Sport Conditioning, Swimming, Coaching Science〉 競技選手にとってのコンディショニングとは、競技会に向けて心身の状態をより好ましい方向に整えることを目指すことである。そのための栄養、休養、リラクゼーション、トレーニングとしての身体活動などを含む、総合的で短期的な働きかけについて、実際の競技の場における事例や研究報告を提示しながら授業を展開していく。トレーニングの実践方法についても理解を深める。	博士：研 修士：研
眞鍋 芳明 MANABE, YOSHIKI 教授 博士（体育科学）	トレーニング科学、陸上競技、コーチング学〈Training Science, Athletics, Coaching Theory〉 ヒトが行うスポーツ活動を定量的に捉え、スポーツ技術を力学的に評価したり、新たな技術およびトレーニング方法考案の支援につなげたりすることが応用スポーツ科学分野における研究目標である。スポーツという複合的実践領域において行われる研究は、様々な要因が極めて複雑に介在するため、その研究成果を直接的にトレーニング現場に利用することは困難である。しかしながら、トレーニング現場が抱える問題点や課題を単純化し、その糸口を掴むことがトレーニング科学を専攻する我々の責務である。	博士：研 修士：研
藤林 献明 FUJIBAYASHI, NOBUAKI 准教授 博士（コーチング学）	一般コーチング学、パフォーマンス分析〈Coaching Science, Performance Measurement〉 スポーツのコーチングでは、①種目特有の課題に対するコーチングと②すべての種目に共通する一般的なコーチングに関する知識を有しており、トレーニング現場へと応用することが求められます。前者については、主にパフォーマンスをどのように客観視して課題を抽出するか？抽出した課題をどのような手段で解決するのか？といった方法論。後者については、コーチや選手の行動論の革新を目指し、バイオメカニクスやトレーニングの実証研究、コーチング・トレーニングの省察的研究などの手法を組み合わせた研究を実施している。	博士：研補 修士：研
船木 浩斗 FUNAKI, HIROTO 准教授 博士（コーチング学）	球技、ハンドボール、コーチング学〈Ball Game, Handball, Coaching Science〉 球技における、選手やチームの競技力を合理的に高めるコーチングに役立つ知見を得るための研究を進める。具体的には、①インタビュー調査などの質的研究により、ある球技種目におけるわざの構造の解明や、それを利用した有効な指導内容の検討などを行う。また、②記述的ゲームパフォーマンス分析の手法を用いて、選手やチームの競技力評価、戦術の有効性の検証、ある球技種目のゲーム構造解明などを行う。	博士：講 修士：研補

※担当について

博士：研……博士後期課程研究指導教員
 博士：研補……博士後期課程研究指導補助教員
 博士：講……博士後期課程講義のみ担当教員
 修士：研……博士前期課程（修士課程）研究指導教員
 修士：研補……博士前期課程（修士課程）研究指導補助教員
 修士：講……博士前期課程（修士課程）講義のみ担当教員

教員に関する詳細は以下↓から検索できます。

中京大学公式ホームページ→「中京大学研究者業績データベース」
<https://www.chukyo-u.ac.jp/>

学位授与件数（累計）

2021年度までの実績

※2022年3月31日現在

研究科	専攻	修士	博士（課程）	博士（論文）
文学研究科	日本文学・日本語文化専攻	24	2	1
	歴史文化専攻	7	—	—
国際英語学研究科	国際英語学専攻	18	—	—
	英米文化学専攻	4	—	—
心理学研究科	実験・応用心理学専攻	39	4	4
	臨床・発達心理学専攻	220	7	7
社会学研究科	社会学専攻	40	11	0
法学研究科	法学専攻	295	3	0
経済学研究科	経済学専攻	163	5	2
	総合政策学専攻	20	0	0
経営学研究科	経営学専攻	174	15	0
情報科学研究科 *2020年4月廃止	情報科学専攻	256	—	—
	情報認知科学専攻	—	24	8
	メディア科学専攻	60	3	1
工学研究科	機械システム工学専攻	40	—	—
	電気電子工学専攻	19	—	—
	情報工学専攻	30	—	—
体育学研究科	体育学専攻	524	54	33
スポーツ科学研究科	スポーツ科学専攻	20	2	1

研究支援

授業補助者（TA）制度

学部の授業をサポートする授業補助者制度（ティーチング・アシスタント、以下TA制度）を実施しています。TA制度の業務内容は、「教育指導者としてのトレーニングの機会（教育的配慮）」になることを前提とし、将来、研究者・教員等の進路への重要なキャリアとして位置づけられるものとしています。TA制度はアルバイトとして雇用するため、時間数に応じた給与が支払われます。

リサーチ・アシスタント（RA）制度

学術研究の充実と若手研究者の育成を目的に、優秀で意欲のある大学院生（本学博士後期課程在籍者）が、本学のプロジェクト研究等に研究補助者として参画できる制度です。リサーチ・アシスタントはアルバイトとしての雇用のため、時間数に応じた給与が支給されます。また、研究指導や授業等に支障が生じないよう、期間、就業時間に限度を設けています。研究者の第一歩としてプロジェクト研究等に携わることは、大学院生にとって貴重な体験となります。

長期履修制度

職業を有している等の事情により、十分な学習・研究時間が確保できない場合、以下の専攻及び課程は3年間（又は4年間）での計画的な教育課程の履修を可能としています。

- 法学研究科 法学専攻 博士前期課程 …… 3年又は4年
- 経済学研究科 経済学専攻 博士前期課程 …… 3年
- スポーツ科学研究科 スポーツ科学専攻 博士前期課程 …… 3年

名古屋キャンパス総合資料室

文、国際、総合政策、経済、経営の各学部、教養教育研究院、および研究科所有の蔵書や交換雑誌等を1カ所に集め、共同利用するために設けられた施設です。なお、蔵書としては辞書、年鑑、白書、単行書のほか雑誌等があげられます。

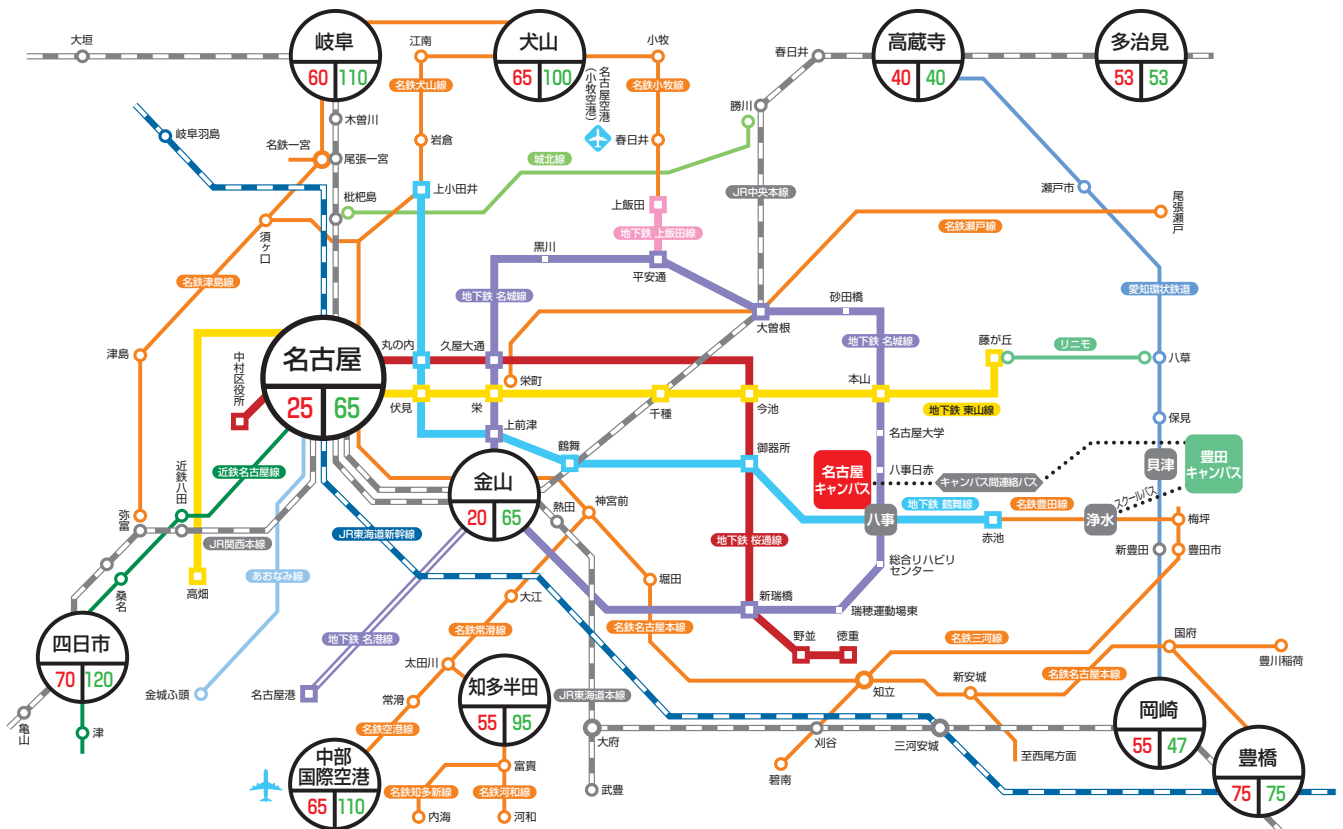


図書館

本学には、名古屋キャンパスに「名古屋図書館」、「ライブラリーサービスセンター」、「法学文献センター」の3館と、豊田キャンパスに「豊田図書館」が設置されています。多くの学部・研究科を設置する総合大学の図書館として、多分野にわたる幅広い充実した蔵書を誇っています。特に、名古屋図書館には自動書庫（80万冊収蔵可能）をはじめ、積層式書庫（約9万冊）、貴重本書庫等の機能的な設備を整備しています。

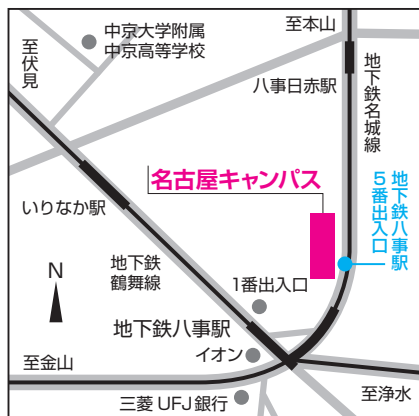


Access 主要駅からのアクセス



NAGOYA CAMPUS

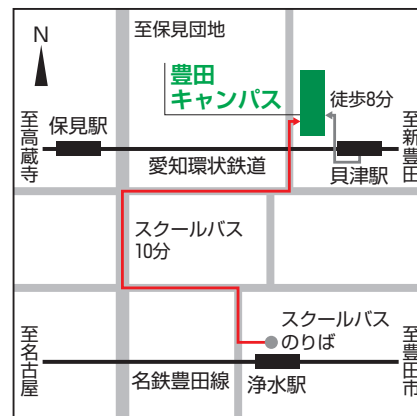
名古屋キャンパス
〒466-8666
愛知県名古屋市昭和区八事本町101-2



名古屋キャンパスは地下鉄「八事」駅5番出入口より直結です。

TOYOTA CAMPUS

豊田キャンパス
〒470-0393
愛知県豊田市貝津町床立101



名鉄豊田線「浄水」駅より豊田キャンパスまでスクールバス（無料）にて10分です。
また、愛知環状鉄道「貝津」駅より徒歩8分です。
※スクールバスは「浄水」駅到着時間と授業開始時間を考慮し運行（日曜日・祝日は運休）。





中京大学 教務センター（大学院係）

TEL (052)835-9863 〈受付時間〉 平日9:00~17:00

E-mail gs-office@ml.chukyo-u.ac.jp

名古屋キャンパス

文学研究科・国際英語学研究科・心理学研究科・法学研究科・経済学研究科
経営学研究科・工学研究科（機械システム工学専攻・電気電子工学専攻・工学専攻*）
〒466-8666 愛知県名古屋市昭和区八事本町101-2

豊田キャンパス

社会学研究科・スポーツ科学研究科・工学研究科（情報工学専攻・工学専攻*）
〒470-0393 愛知県豊田市貝津町床立101

※ 工学研究科工学専攻博士後期課程は研究の領域により通学するキャンパスが異なります。

★このパンフレットは2022年5月現在に確認できる内容に基づいて作成しています。専任教員や教員課程等を変更する可能性があります。

